

日本にいながらにして、 世界の現実に触れ、 「ビジネスの力で社会を変える」 を模索する

在日本難民との直接対話・協働を通じて
地球規模の社会課題を「知識」ではなく
自分ごととして捉え直す体験型プログラムです



当研修での次世代リーダー育成の4つの機会提供

Sustainability

＜複雑な文脈を読み解けるサステナビリティリーダー育成を＞

地球規模で複雑化する社会課題に向き合うには、多様な価値観を受け止める深い懐と、世界や歴史を俯瞰する視野が不可欠です。本プログラムでは、サステナビリティリーダーに不可欠な複雑な文脈を読み解ける力の獲得を目指します

Dialogue

＜直接対話による自分ごと化を＞

グローバルな社会課題の渦中に生きる生身の人と直接触れ合うことで、ニュースや知識としてではなく、地球規模の課題を自分ごととして捉え直す体験を提供します。対話を通じて、自らの価値観や前提を見つめ直します

Cross-cultural

＜自身から程遠い世界からの刺激を＞

地政学的に重要な中東、成長著しい一方で深刻な課題を抱えるアフリカからの難民との交流に加え、異業種交流(異業種から次世代リーダーが集まる)研修として設計することで、これからのリーダーに必要な視野の広さと柔軟な思考の涵養につなげます

1st Step in Japan

＜日本で最初の一步を＞

日本に來ている難民との対話・協働の場を組み込んだ研修を通じて、海外に行くことなく、日本にいながらにして世界の現実を知り、身近に肌で感じる機会を提供します。グローバル課題に向き合うための最初の一步を、日本から踏み出します

パイロット実施概要(予定)

日程：2026年9～10月(集合研修 2.5日間)

形式：対面(在日本難民との交流・対話含む)

対象：次世代リーダー層／サステナビリティ担当者

費用：15万円(税別)／1名

お問い合わせ

PFC研修事務局

pfc@peoplefocus.co.jp

または弊社担当者まで

プログラム全体像(2.5日間・パイロット実施)

Dialogue & Cross-cultural	Sustainability Leadership	<オプショナル> アクションラーニング	Presentation & Sharing
研修(1日間) 在日本難民との対話・交流	研修(1日間) サステナビリティ・リーダー シップ研修	集合研修終了後: 4~5日間	発表・振り返り(半日)
9月24日(木) 予定 9:30~17:00 (交流懇親会~19:30) - 日本企業で働く在日本難民を講師・対話パートナーとして招き、難民の背景、意思決定、仕事観に触れ、社会課題を生身の人を通して理解する - 異業種参加者同士の対話を通じ、多様な視点・前提の違いを可視化する * 2026年初回(パイロット)は、日本企業で働くシリア難民を講師とする予定	9月25日(金) 予定 9:15~17:00 1日目の体験をもとに、社会課題と自社の事業・意思決定を接続する - サステナビリティ経営を行っていくのに欠かせない、「文脈」の読み解き方を考察する - 正解のない問いに対し、リーダーとしてどう判断し、行動するかを探究する - サステナビリティを理念ではなく「実務の問い」として扱う	在日本難民および、現地とつないだフィールド・インタビューや追加コミュニケーション * 2026年初回(パイロット)は、オプショナルの実施はございません	10月20日(火) 予定 9:00~13:00 - 学び・気づき・問いを整理し、“ビジネスの力で社会を変える”ための自社への示唆として言語化する - 他参加者との共有を通じ、視点の広がり学びを深化させる

なぜ今、「難民」との対話・交流を通じた研修を行うのか

地政学リスク、気候変動、経済格差など、企業活動と切り離せない社会課題が複雑化・連動しています。
 こうした時代に求められるのは、生きてきた背景や価値観の異なる他者と向き合い、多面的に考え、意思決定できるリーダーです。
 本研修では、日本に暮らす難民との対話・協働を通じて、社会課題を「知識」ではなく今起きている現実として捉え直す機会を提供します。

対象者

本プログラムは、以下のような人材育成ニーズを持つ企業の社員を主な対象としています

- ・次世代のサステナビリティリーダーを育成したいと考える企業の社員
- ・グローバル、特に中東・アフリカで起きている地球規模の社会課題を、自分ごととして考える機会を提供したいと考える企業の社員
- ・海外研修に送りたいが、コストや日程の制限があり、まずは日本で学びの場を提供したいと考える企業の社員

期待される効果

本プログラムを通じて、参加者には以下のような変化が期待されます

- ・グローバルで起きている社会課題を、知識としてではなく、自社や自身の意思決定と結びつけて捉えられるようになる
- ・異なる背景・価値観を持つ人との対話を通じて、多面的に状況を理解し、考える視点が広がる
- ・サステナビリティを理念やスローガンではなく、日常の業務や意思決定の問いとして考える姿勢が養われる

<補足・留意事項>

- ・本研修は思想・価値観の押し付けを目的としません
- ・政治的・宗教的立場の主張は行いません
- ・難民就労支援の専門機関と連携し、企業・参加者が安心して参加できる設計・運営を行います